

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	87		学校名	茨城県立総和工業高等学校						課程	全日制		学校長名			海老澤 恭弘		
教頭名	石川 肇										事務（室）長名			井坂 博一				
教職員数	教諭	28	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手		8	事務職員	3	技術職員等	3	計	48	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	機械科		34	3	24	2	35	0			93	5	3					
	電気・電子科		22	4	32	2	24	4			88	10	3					
	電気科		13	0	12	2	10	0			35	2	3					

2 目指す学校像

- 1 校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で、豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する学校。
- 2 圏央道沿線の工業団地の発展に貢献できる人材を育成する、地域に根差した工業高校。
- 3 全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒、保護者及び地域社会から確かな信頼を寄せられる学校。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	・校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する。 ・地域に根差した工業高校を目指し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	・多様な学習ニーズに応じた教育課程の実施により、就職から大学進学までの進路希望の実現。 ・系統的・組織的なキャリア教育を推進し、企業及び大学との連携を図り、望ましい勤労観や職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し社会の変化に対応できる力をもつ生徒の育成。

別紙様式 1 (高)

入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	・基礎基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に習得し、「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につける努力をする生徒。 ・工業の基礎的・実践的技術を習得し、各種資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒。 ・自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒。
---	---

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	進路実現や資格取得、技能修得を目標に、意欲的に学習に取り組む生徒がいる。一方で、学習への取り組み課題がある生徒もみられる。学習に対する興味関心を高めるために、ICT機器を活用した授業の改善を図っている。	生徒の興味関心を引き出す授業を展開するため、タブレットや電子黒板等の利活用を促進する。それらを活用した学習活動を取り入れた授業改善を行い資質・能力の向上を図る。
生徒指導	挨拶のできる明るい生徒が多いが、身だしなみ等に対する意識が不十分な生徒もみられる。登下校中の交通事故も発生していることから、安全教育と共に交通マナーを徹底していく必要がある。	生徒指導相談員から助言や指導を仰ぎ、生徒一人一人にきめ細やかに接し、自己肯定感や自己有用感を高めさせることで、問題行動の未然防止と早期発見等に努める。 また、自転車・原付バイク通学者の交通安全教育と定期点検の充実を図る。
進路指導	就職希望者は例年卒業生の約 65%で内定率は 100%を維持している。大学進学者は約 15%、公共職業開発施設と専門学校進学者が約 20%である。生徒の実態に応じて各学年でキャリア教育の充実を図ると共に、各生徒の希望進路に対応した面接や書類作成の指導を組織的に実施している。求人票については IT の導入により保護者の閲覧も容易になった。	生徒の進路意識を向上させるため、1 学年から計画的なキャリア教育を実施する必要がある。2・3 学年で実施するインターンシップや企業実習を充実させ、確かな職業観の育成を目指す。模擬試験の実施等により公務員、大学進学者への指導体制を整えていく。

別紙様式 1 (高)

特別活動	学校行事の運営面の工夫を重ねた結果、積極的に行事に参加する生徒が増加した一方で、部活動の参加は全校の 33%程度で改善する必要がある。 卒業後、就職する生徒が多く、社会性や公共心の育成も求められるところであり、募金等のボランティア活動の他、地域のワークショップに参加する生徒も出てきた。	学校行事や部活動に意欲的に参加できる心がけや工夫が更に必要である。 人間形成の一助となるよう、生徒会を中心に、奉仕作業やボランティアの機会を促進し、特別活動全般にわたり総工版キャリア・パスポートを用いて自己評価を行い、記述を基に対話的に関わり、生徒の社会性の成長を促す。
働き方改革	全職員の月当たり時間外勤務の平均は 20 時間を下回っており前年度並みであった。部活動指導により、45 時間を超える教員は部活動顧問、校務分掌主任に集中している。定時退勤を守る職員が増えたが、現状として一部教員に業務が偏っている。	ICT を利活用して、教職員間の業務進捗の共有を図り、必要のない業務の精選を進める。職員数減少に伴い、分掌間の業務の連携と共に次年度に向けて校内分掌の組織再編を検討する。

5 中期的目標

- 1 生徒一人一人を大切に育てる教育を実践し、確かな知識と技術をもつ生徒を育てる。
- 2 授業改善を推進し「魅力ある授業」、「楽しい授業」を展開し、「確かな学力」を身につけた生徒を育てる。
- 3 工業の基礎的・実践的技術を習得し、各種資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒を育てる。
- 4 高い規範意識をもち、企業が求める「社会人基礎力」を身につけた生徒を育てる。
- 5 生徒の進路希望の実現に向けて、系統的・組織的なキャリア教育を推進する。企業及び大学と連携し、望ましい勤労観・職業観を養うとともに、社会の変化に対応できる生徒を育てる。
- 6 学校行事、部活動、ボランティア活動等を活発にし、生徒の自己肯定感を高める。
- 7 生徒が生き生きとした学校生活を送ることができる安心、安全な学校づくりに努める。
- 8 地域交流、出前授業などにより、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- 9 より効果的な教育活動を行うために、業務の効率化を進める。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習意欲を高める授業・実習の指導改善	①基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を生かして、授業改善を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ③ものづくり教育を推進し、専門的な知識や技術の習得により、資格取得につなげる。 ④ICT 機器の利活用を促進し、「協同的な学び」を推進する。 ⑤生徒による授業評価において、授業満足度の平均点を 3.2 以上とする。
道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	⑥規範意識の涵養を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑦道徳教育やいじめ防止対策を推進し、問題行動等の未然防止を図る。 ⑧交通安全ルールやマナーの徹底を図り、交通事故防止に努める。
健康や体力を育み学校全体の活性化	⑨特別活動や部活動等において生徒の自主的活動を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑩学校行事における体験的活動等を通して生徒の協調性、協働性を育成し、学校全体の活性化を図る。
社会の変化に対応した生きる力の育成	⑪キャリア教育を推進して勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。 ⑫企業見学会、インターンシップ及びガイダンスを充実させ、生徒の主体的な進路選択を支援する。
P T A活動の活性化と地域社会との連携	⑬P T A活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑭地域イベントへの出展や出前授業などを積極的に展開し、本校の特色を生かした、地域社会との連携を推進する。
働き方改革の推進	⑮業務の精選及び効率化を推進し、教育活動の充実を図る。